

STRUM

シュトゥルム

第47号

令和2年3月31日発行

桜が満開だというのに、なんととも窮屈な春になってしまいました。この状況の中、皆様にはお変わりなくお元気でお過ごしでしょうか。オリンピック延期に外出自粛要請…毎日更新される驚きの情勢に、先の読めない不安が隠せませんが、こんな時こそ心を鎮めて音楽に耳を傾けませんか。伊都さんを通じて今まで音楽に親しんできたからこそ知っている世界が、私たちにはあると思います。心落ち着けて、この日々を乗り越えていきたいものですね。



幼稚園での演奏

三味線とジャズピアノとのコラボでミニコンサート



神田の画廊で演奏

版画家、作家として有名な伴田良輔さんデザインのドレスで

近況報告

あまりにも新型ウィルス、コロナと報道されすぎて、ちょっと飽和状態になりながらも、日本も世界も恐慌状態、音楽界もコンサートはほとんどすべてキャンセル、特にヨーロッパは長い冬が終わり、春のコンサートシーズンに突入、そして音大入試の時期にも関わらず、ウィーンも外出禁止令で街からコンサートは消え、入試も中止、もちろん緊急事態とはわかりつつも、留学を決意し、慣れない土地、聞き取れない言葉を話す人たちの中で、この道をモーツァルトやベートヴェンも歩いたのかな、などと思いながら、近づく入学試験を目前に、日々期待と不安にドキドキしながら過ごす音楽家の卵たちには試練の年になるのではないかと…と自分の時のこと、高校卒業と同時にウィーンにわたり、日本が恋しいでしょと中華のテイクアウトの残りを差し入れてくれた寮の警備員、時間通りにこない市電、1だか7だかわからない大学職員の手書きの番号に一喜一憂していた記憶がよみがえります。

5、6月のイベント自粛の目途はまだまだ見えない状態で、演奏が生活の糧の奏者も、音楽が心の糧の聴衆も我慢の時期が続くかと想定しつつ、自粛は自省の良い機会なのかと、日々に流されず、いつか弾こうと計画している曲の譜読みや、曲のリサーチ、楽器の音の調整などちょっと歩みを緩め、4月7日のライブハウス、そして6月のライブコンサート（現在日程調整中）など、小さな空間での音の紡ぎを愛しんでいきたいと思っています。 【伊都】

歌う瞑想 - in Yokohama -

4月7日（火）19：00 open
19：30 start

横浜エアジン（横浜馬車道）

Charge：¥2500（予約¥2000）

<http://airegin.yokohama/>
TEL 045-641-9191

インドの歌う瞑想と呼ばれるキルタンをベースに世界で一つしかない音の波動をお届けします

Chini Masako (Harmonium & Vocal)
加納伊都 (Violin)
GRACE (Percussion)

3月28日に予定していましたが「親子で聴ける本格クラシックコンサート」は10月11日（日）に延期となりました。また後日改めてご案内致します。

いとちゃんのクラシック講座

op.27



2020年生誕250周年を迎える、偉大なる作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンがこの世から去ったのは、1770年3月26日、いまやオリンピック委員会会長の名で有名なバッハ（ドイツ語で小川さん）音楽の父、ヨハン・セバスチャン・バッハが産声を上げたのは1685年3月21日、他にも3月25日は私の民族リズム好きの血を騒がせるハンガリーの作曲家、バルトークの誕生日であり、フランスの作曲家でありながら、ジプシーやジャズ風の曲想で、その曲を弾くと指や弓が勝手に動いて、音楽が体に入ってくるようなシンパシーを感じるラヴェルの命日でもあり、3月後半はクラシック愛好家にとってアニバーサリーな時期なのですが、このコロナ騒ぎで、関連のイベントが中止なことに、特に今年はベートーヴェンファンは落胆が隠せないようです。

ベートーヴェンといえば、難聴に苦しみ、40代にはほぼまったく聴こえなくなりながら、第9など数々の名曲を書いたことは有名ですが、その原因の一つの鉛中毒説は、大酒のみで甘いワインが大好きなベートーヴェンが当時ワインを甘くするために混入させていた鉛入りワイン（少しとろみがあったらしい）を毎日1ボトル以上、鉛のコップで飲んでいたので、それと同じ鉛のコップで（1杯ぐらいなら特に害はない・・・らしい）飲ませる居酒屋が確かプラハにあり、コップは重くて金属臭くて、全然おいしくないけれど、当時は甘味が貴重であり、ちょっと気持ちを変化させるために、何か甘いものを口にしたい・・・というのは古今東西変わらぬ願いなのではないか、パソコン画面をにらみながら知らぬうちにチョコレートに手が伸びているように、大作曲家がため息を一つ、甘い液体の入った重いコップを持ち上げる様子が想像されて、少し天才が身近に感じられるような、それにしても、チョコの代わりに鉛を摂取するようなことであれば、難聴の原因かはともかく、体に負担が大きかっただろうことは、容易に想像がつかます。

バッハは、白内障の手術が失敗し、失明したことで死を早め、交通事故の後遺症で言語、記憶障害に悩まされたラヴェルは、委縮した脳を塩水で膨らます手術が一因となり死亡、バルトークは故郷を後に新天地アメリカに移住するも、白血病に苦しみ（それでも64歳まで存命）、今年生誕160年のマーラーは、ベートーヴェンに端を発する、交響曲9番を書くことと死んでしまう・・・という恐怖におびえながら、やはり9曲目を完成した直後に死亡、医療やテクノロジーがどんなに発展しようと、新型ウィルスの脅威から免れないように、人は自然界の一部であり、そして人の生死は少なからず劇的なものだと感じます。



【伊都】

DVD Classic Collection

作品 No.39

「愛と哀しみのボレロ」

1981年 フランス

半世紀の時を超えた四大家族の物語



あらすじ

ヘルベルト・フォン・カラヤン、グレン・ミラー、ルドルフ・ヌレエフ、エディット・ピアフという実在の四人の芸術家たちをモデルに、戦前、戦中そして戦後からの2世代、3世代に亘る波瀾に満ちた、愛と哀しみの人生を描く大作。運命の糸に操られるように四大家族の物語が絡み合う。

見どころ

監督・脚本はクロード・ルルーシュ、音楽はフランシス・レイとミシェル・ルグランという、フランス映画界巨匠の3時間に及ぶ名作だが、何と言っても天才バレエダンサー、ジョルジュ・ドンが踊る終盤の「ボレロ」が圧巻。それまでの50年の四大家族の歴史の集大成の場面として心を打つ。物語の舞台はモスクワに始まり、パリを中心に、ベルリン、ニューヨーク、ロサンゼルスとスケールが大きく、世界大戦に巻き込まれながら、また、子や孫に繋がっていく家族の様子が描かれていく。

感想

四大家族のそれぞれの話が交錯して進んでいくので、ボーっと観ていると頭がこんがらがってDVDを少し戻すことになる。戦争の苦しみを、芸術家家族を通して描いているところが、とてもフランス映画らしいと感じた。話はややこしく、時間も長いけど、それでも観たあとは、いい映画を観たなあという満足感が残った。ジョルジュ・ドンのバレエは、まさに肉体の芸術だが45歳でエイズにより早逝した。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 3月末だというのに！外は降りしきる雪！！この原稿を書いている間にもお隣の屋根は見る見るうちに真っ白になってきました。週末の外出自粛要請に合わせたかのような雪、これじゃ外に出るにも出れませんね。／コロナ騒動は2ヶ月を超え、何だか疲れてきましたね。マスクやアルコールはわかるけど、なんでトイレペーパーや納豆まで消えるの？！／伊都さんも書いているように、こんなに医療が進歩した現代でも人間の力でどうにもならないことが起こってしまう、地震や異常気象もそうですが、私たちは自然界の一部であることを思い知らされます。／でもそれを乗り越えていく力もまた備わっているのが人間。主婦の知恵だって偉大です。心の平穏をコントロールすることも然りですね、ぜひ音楽をお側に！〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL：045-622-6780

FAX：045-621-6423

Email：trauben@itokanoh.com

Homepage：itokanoh.com